

✈️ 海外生活 だより

ロンドン事務所

ロンドン現地校事情 ～中学生編～

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所所長補佐
田村 佳代子 (山口県萩市派遣)

今回は、ロンドンの現地校事情について、2人の中学生の子どもを伴いロンドンに赴任した私の経験から、ご紹介したいと思います。

現地校での中等教育

英国の義務教育期間は、通常、5～16歳 (Year 1～Year11) の11年間で、セカンダリースクールと呼ばれる中等教育は11歳 (Year 7) から始まります。16歳 (Year11) で義務教育を修了するときには、GCSE (General Certificate of Secondary Education) という義務教育修了試験を受けます。GCSEは英語、数学、理科のほか、情報、歴史、地理、フランス語、技術、美術など50科目以上の中から受験科目を選択します。選択者は少ないですが、日本語も受験科目の一つとして含まれています。

現地校には、授業料が原則無料の公立の学校と有料の私立の学校があります。

パブリックスクールと呼ばれる私立の学校には長い歴史があり、入学基準も厳格です。入学後は全寮制生活を送るなど、英国の一流大学への進学を前提としたエリート育成教育が実施されています。



休憩時間を屋外で過ごす現地校の生徒たち

現地の公立学校への入学

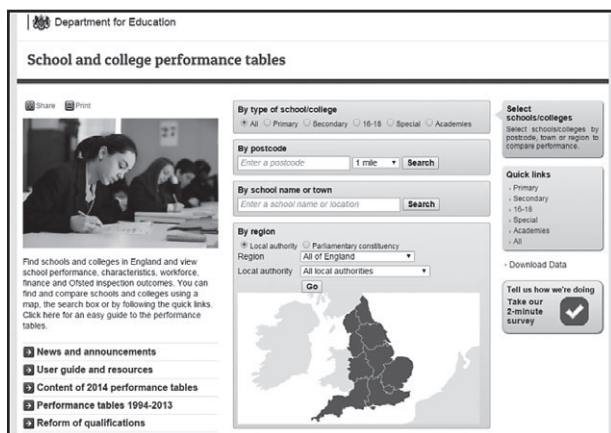
現地の公立学校への入学を希望する場合、居住する自治体 (カウンシル) に申請をします。驚いたことに、「この地区に住めばこの学校」と決まっている訳ではなく、また、学校ごとに通える生徒数がきっちり決まっているので、もし希望する学校の定員に空きがなければ、たとえ学校の隣に住んでいても入ることができません。さらに、申請は複数校希望できるため、人気のある学校はすぐに定員がいっぱいになってしまいます。希望する学校に空きがない場合、空きが生じるまでひたすら待つ (ウエイティング) か、空きのある別の学校に通うか、選択を迫られます。ちなみに、何か月もウエイティングしたからといって、必ず入れるという保証もありません。ウエイティングの場合、カウンシルが、自宅から学校までの距離、その学校にすでに通学している兄弟の有無、入学希望の申請順などを考慮し、学校ごとにウエイティングリストを作成し、欠員が出れば、掲載順に連絡をします。通常、その連絡から2週間程度以内にその学校に編入するかどうかを決めなければいけません。

学校を選択する際の基準とは

人気のある学校に、なぜ希望者が殺到するのか…。それは、同じ公立学校でも、学校間で教育方針やカリキュラム、学業のレベルなどの違いが大きいと言われているからです。英国にも日本のように学習指導要領のようなものがありますが、教科ごとの時間数や学年ごとの到達度などに厳格な決まりがなく、教員の採用も学校ごとにゆ

だねられています。特に、ロンドンでは地域により住民の層が大きく異なり、多くの希望者がウエイティングしているような人気校がある一方で、給食代が無料となる制度を受けている貧困家庭の生徒が多くを占める学校や英語を母国語としない移民の子どもが多い学校もあります。

そういった状況の中で、学校選びに悩む親たちは次の2つのデータを参考にします。一つは、教育水準局（OFSTED）による監査報告です。私立を含むすべての学校が、第三者の学校評価機関であるOFSTEDによる定期的な抜き打ちの監査により、4段階にランク付けされ、その結果が公表されます。もう一つは、パフォーマンステーブルです。全国一斉テストの結果や卒業後の進路などをもとに、公立、私立を問わず、順位付けされたもので、これも、毎年、学校別に公表されています。



パフォーマンステーブル検索サイト（教育省ホームページより）

手順① 希望する学校決め

年度途中の編入だったわが家の場合は第3希望の学校まで申請可能でした。ただ、周辺の地理もよく分からない状態での学校選びは大変でした。まずは、ネットでひたすら情報収集をしました。英国教育省（DfE）のサイトは郵便番号を入力すると最寄りの学校が距離別に検索できました。カウンシルの学校情報のサイトも参考になりました。最終的に、第1希望は家からバスで30分程度の場所にあるOFSTEDの評価が最良の学校、第2希望は徒歩20分程度で通える評価が良の学校、第3希望はバスと電車で40分程度かかるが評価は最良の学校の3校に決めました。

手順② オンライン申請

カウンシルのサイト内にある編入学申請フォームによりオンラインで申請しました。23ページに及ぶフォームを入力後、パスポートの写しと住所が記載された郵便物（住所を確認するため、税金やガス・電気料金の請求書などの2種類）を一緒に送信し、申請は完了しました。申請後、カウンシルからメールと郵送で受付完了の通知が来ました。通知には担当の部署名が記載されており、この担当あてに連絡すると、ウエイティングの状況を教えてもらえました。



編入学申請フォーム（イーリング・ロンドン特別区ホームページより）

入学が決まるまで

通知受領後、すぐに、カウンシルにウエイティングリストの掲載順位を問い合わせたところ、第1希望の学校は上の子が11番で下の子が21番、第2希望は3番と2番、第3希望は29番と30番でした。カウンシルの担当から、毎週金曜日の午前に更新後の最新の掲載順が分かることを教えてもらい、毎週、電話で確認することにしました。約2か月間、毎週、電話で確認し続けていたところ、とうとう、第2希望の掲載順が2人ともトップになりました。そして、ついに、下の子の学年に空きができたカウンシルから電話があり、学校からもインタビューのため来校するようとの連絡がきました。1日遅れで上の子の学年にも空きが出たとの連絡もありました。指定された日に学校を訪問し、学年の担当教員による面談の後、学校内の施設や授業を見学しました。

この学校は、11～16歳が通う学校で、移民の

多いロンドンらしく国際色豊かで、英語が母国語ではない生徒が全体の65%います。そのため、そういった生徒のためにEAL (English as an Additional Language) という英語の特別指導を実施しています。英語ができないわが家の子どもたちにとって、これはとても魅力的でした。また、学校の雰囲気や対応された教職員の方の印象もよかったようで、子どもたちの通ってみたいとの意向を尊重し、この学校に編入することに決めました。



通っている現地校の外観

学校生活

子どもたちの学校生活を簡単にご紹介します。朝、学校指定の制服を着て、徒歩で8時45分までに登校します。教科書は学校所有のため、家に持ち帰ることはほとんどありません。生徒の能力や興味に合わせて教師とともに作成する日課表は一人一人異なり、授業ごとに自分が取っている教科の教員の教室に移動します。授業は1時限75分で1日4時限です。午前に1～2時限が行われ、その後、25分の休憩時間があります。この時間に、家から持参した軽食を食べる生徒もいます。そして、3時限の後、50分のお昼休みがあります。昼食は食堂で提供される有料の給食を食べたり、家から持参するお弁当を食べたり、さまざまです。食堂のメニューは曜日で異なり、金曜日にはフィッシュアンドチップスが登場するそうです。お昼休みにはサークル的な活動もあり、上の子はチェスのグループに入って、友人たちとの対戦を楽しんでいます。4時限が終わると、3時15分に下校となります。放課後、クラブ活動に

参加する生徒もいます。下の子はホームワーククラブに所属し、レポートなどの課題に友人と取り組んでいます。日本のように、全員が所属したり、毎日活動したりする訳ではありません。また、生徒による校内の清掃の時間はありません。



お昼休みの時間を利用してチェス対戦

おわりに

子どもたちから聞く現地校でのことは、日本の学校しか知らない私にとっては未知のことだらけですが、とても新鮮です。この現地校での経験は、きっと子どもたちの今後の人生の糧となり、役に立つだろうと信じています。ロンドンでの学校選びにはいろいろと戸惑うことも多かったですが、子どもたちの現地校通学は、英国の教育制度や学校事情について知ることもでき、子どもたちだけでなく、私にとっても大変貴重な経験となっています。



ネットボールを楽しむ現地校の生徒たち